遠山鹿子

五編

へ13
3902
7

遠山庫子
五編上
山本板

門 ヘ13
3902
7

柳亭種彦作 歌川國貞画

おなほらく おもひ くさやはかのもの

五編上冊

天保六年
乙未孟春發梓

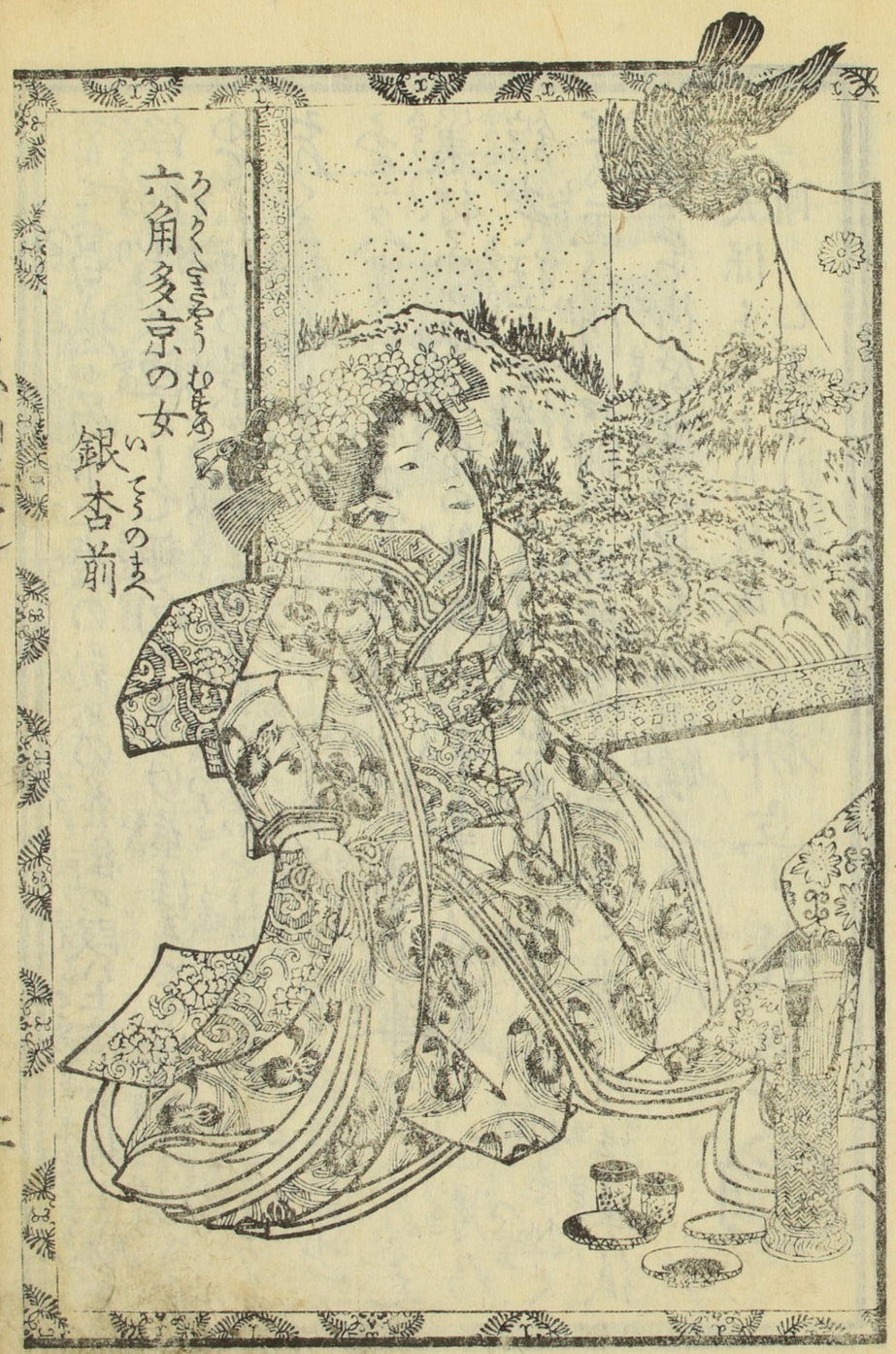
おやぢ橋角
山本屋平吉板

鳥津書

遠山鹿子第五編叙

菊ハ隠逸ゐつうめと頑ことなぶそへし村学者ハ菊姑草の和ある紙屋薗の味よきを知らと路考茶のきるつめ初て招んめ薗の美艶ふ下あをちめ初て招んめ薗の美艶ふ賢されば金着板の十六葉ゆの薬の刀も炳然くもそれ監櫛のり名。仙家も称ぬ黒さ薗を白紙の浸草海苔の栄とそそろ名。仙家も称ぬ黒さ薗を障子の綿と雪ひ薗と愛の花親と見え波の花の向薗八児と涙よ今も笑ひ。菊蝶の蹴んるり順公筆把一ヶ徒年正月の初遠山鹿子の外遠山を震隠れ見え入慈童が壽やわやうざると歎けども其うのもく上品制ふ事果て六角の御殿場より遠山が名と

六角多京の女
銀杏前

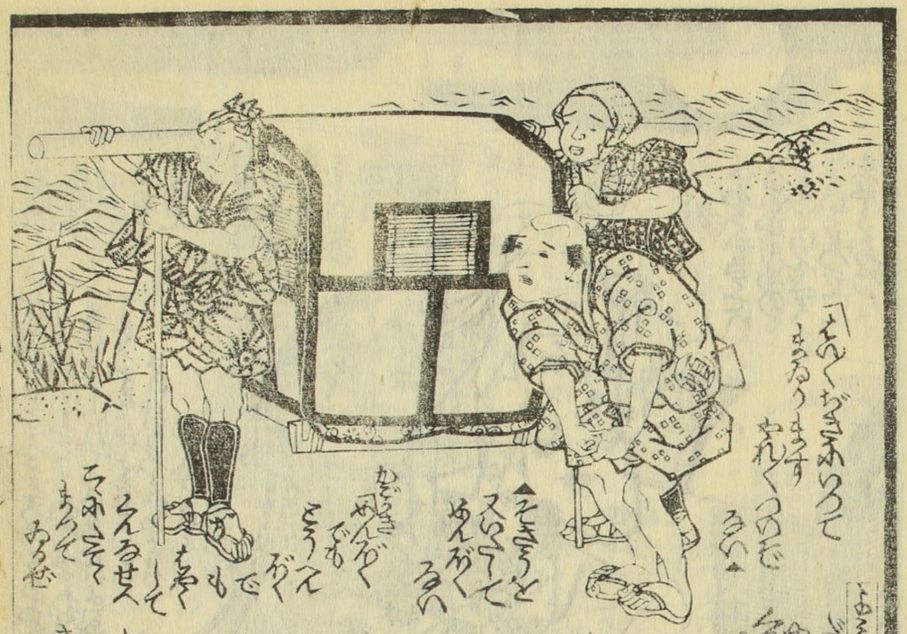


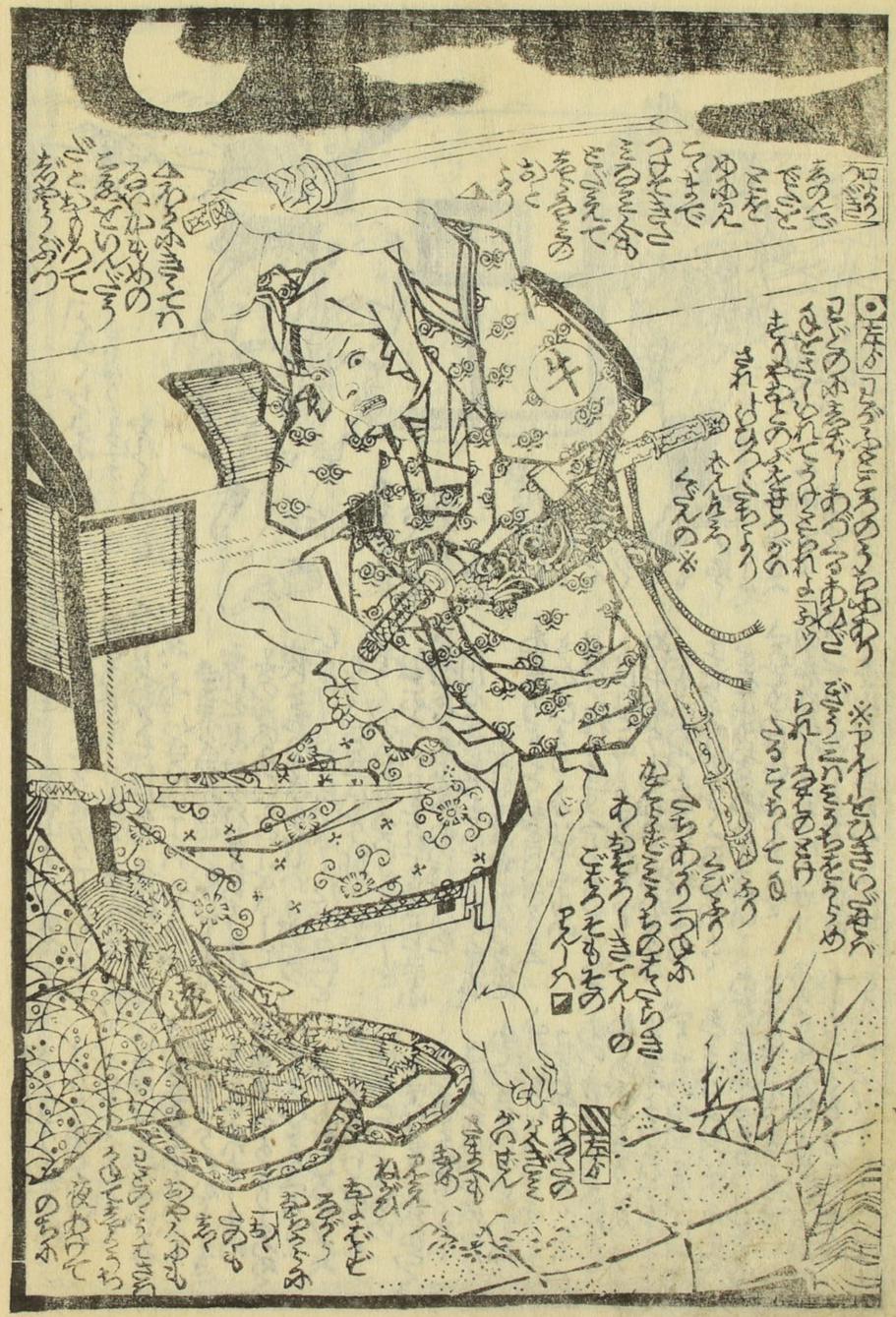
あの阿野の四郎次郎
あとのおとづれ

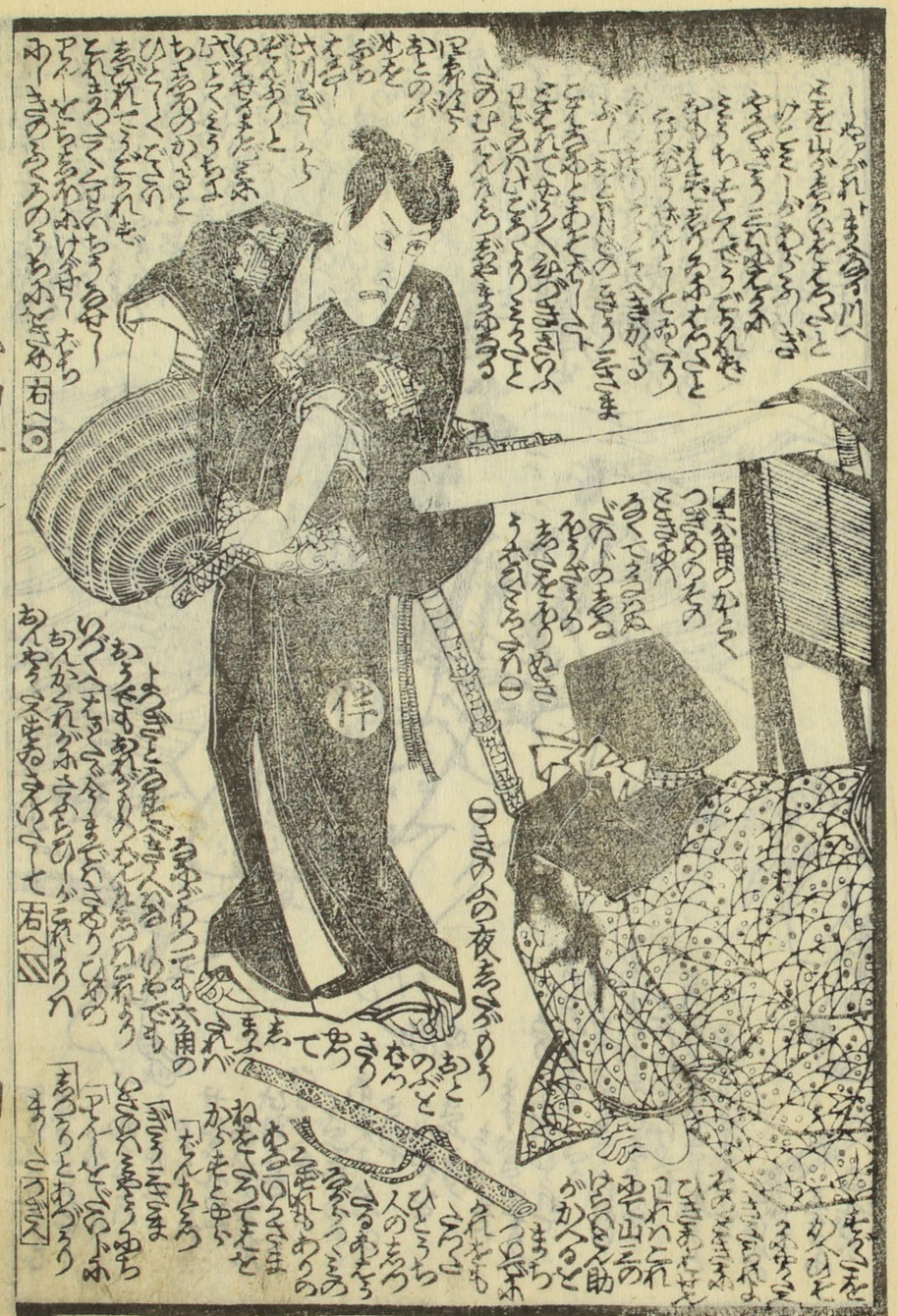
替て高城が月下二度の勤めの花街の段。土佐少掾正勝が浄瑠璃狭種として趣向をまうけ置ぬれども。それをもて花壇の景色物足らず。夏よ杜若を挿んとそれハ三本ゑらう。それくさ初編にうつして巻毎出さう。註方るさふ歌舞妓ゆえふきづくしといふ物ゆえ遠山と滑てゑまひ。事ゆゑそえ巣林子が近頃河原の熊野山。四条の館ゆえ狂言と告びそれバ云ふ迄もなく一画ハ市名訓の香蝶楼相替らず待笑陽ゑ程を偏に願ふ

天保壬辰十一月稿成
同乙未正月發市

柳亭種彦





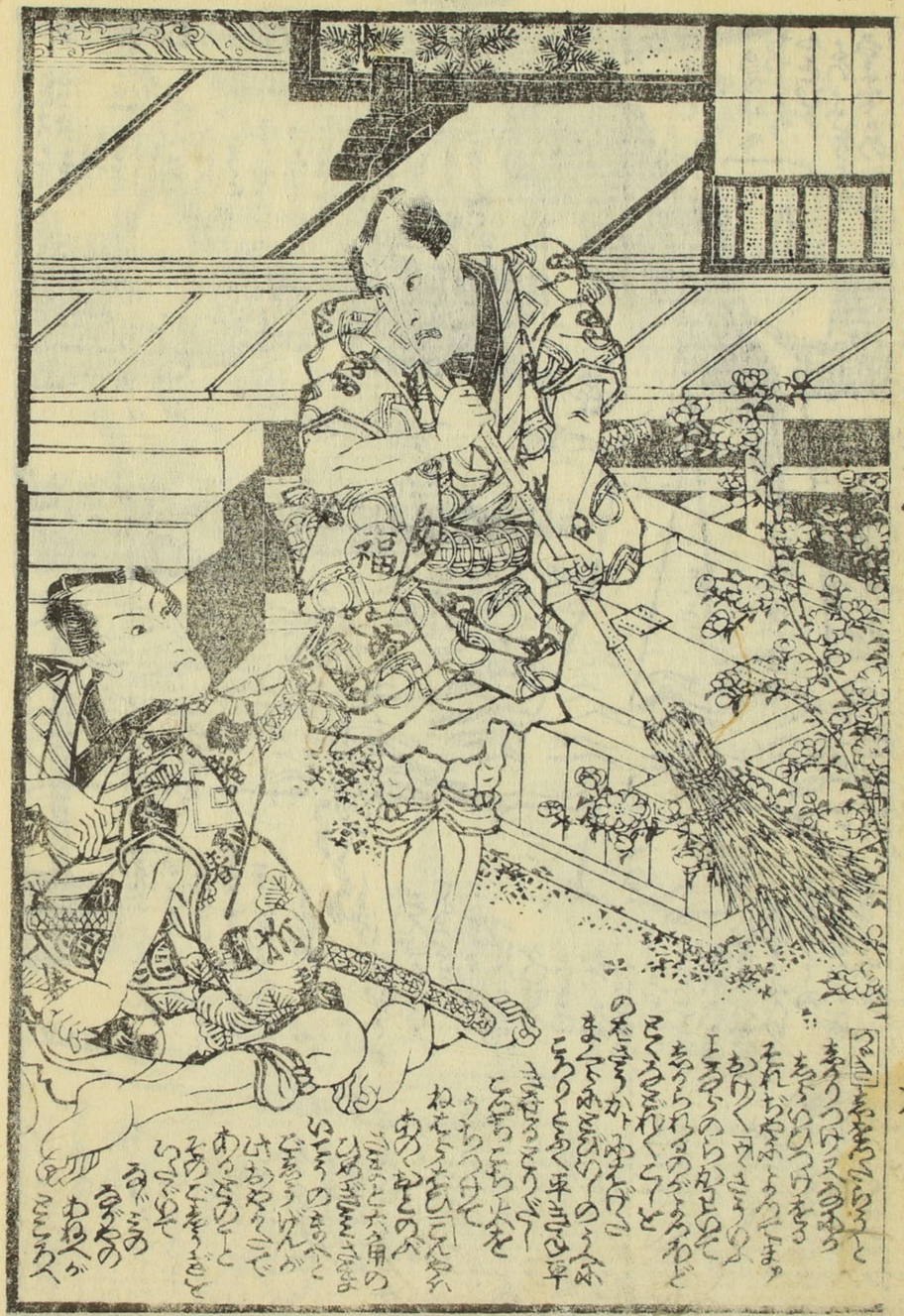


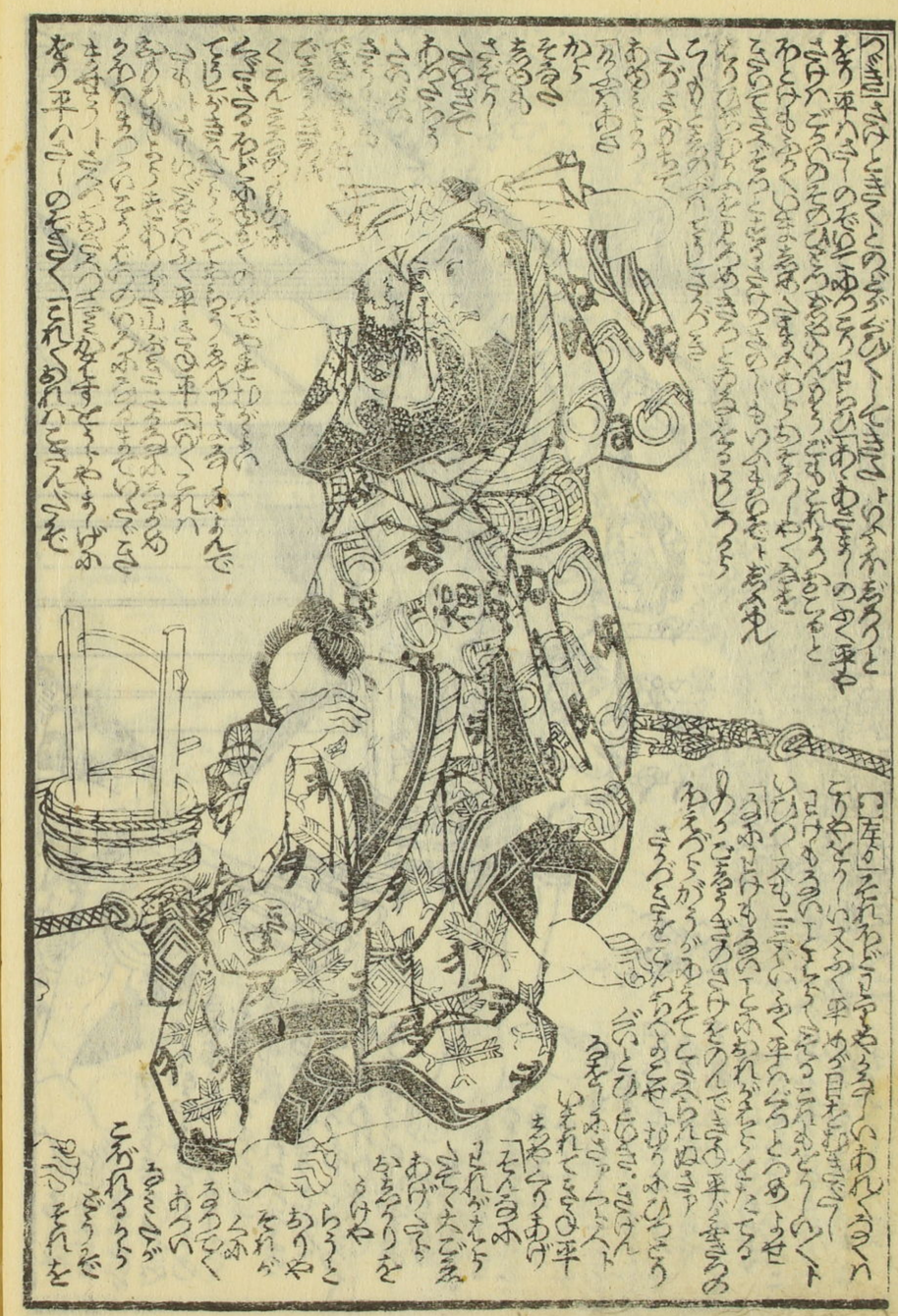
左之助
ヨシヅこそ
ふうく これを
くゝて
ほれよ
こうくられ
せんなんめや
あひさまもん
ひねんを
ひるべを
てごやわこと
ある人よごめ
そこで
ひめくを
さろう
ちくこを
ますべきこをう
これこれをふくしる
つぎの日ろうくいぬけ
めもおぼえもちくそを
これがこそげぐち
そうもめもをきわわうと
ろうくまるだいべ
ろうとおざひられて
ろうとおざひられて
ろうふ
ろんだい

ゆみをちがへの
まれさうひさぎよく
さーちらくベルト
もうくるところをつを
ひつまんのーまうこも
ぎう三つきぎます
ろん的ろうとと
そうくとろ
かさきけ
ろぐれわぐうをぬとれ
あんいちぐあいき
うえてこさとひうふ
さをれくう
ろうとおざひられて
ろうとおざひられて
ろうふ
ろんだい

金ふく
平も
きの平も
ちつとまア
やまむの
あの「イヤさう平の
るまらぬめ「平八」
これうしん月
のやまの
つらの
あらせ
ひらく
そんぐわん
※あらくわんぐん
もつぐわん
ぐわんけう
九ぶんを
おもて
そんぐわん

「平八」
「平八」





若

若

つゞき

[illegible]

[illegible]

つゞき そのうめこれへむちゃとこそてさうゆうようてごろあーまりひきめづまいのまのがきのぐさうぐあゆうらえるくごろかとざーうまれつのてありや人おもまることがたさうひおやさむらひぶもがかてうれとけんへのかゆうひまくさはつかつくうるんとそーへとのさだうえれがらせんなうくとそそくやもうこれよさいのまえこそそうのまのぐさうのあまへいたことるれてあるうぐうのぜをてくめへうさんれぬのおわれもまへくさうこそぬうとせさてろわうをさもすせをまうせゆーてあさられ「うゆんあのぶをらんまくやそのゆけきうとつめれあうやふこうのうえねだひさ「うつこうさうてのの一ろのいちくせんさまうこれいのうとろこさまるとおこれいまわりくさのひあのくりへなんざいうまえさあまうぐうぐ今ごーさろわれか六角のいへいんうこぶのまがえそがゆうえの家へ

そえそてもかまはずせんぶくうきくへごろんそれくさよねんさてうぐうまうえのぶへいまわりくさのひあのくりへなんざいうまえさあまうぐうぐ今ごーさろわれか六角のいへいんうこぶのまがえそがゆうえの家へ

柳亭種彦作 歌川國貞画 合巻揃題

御誂染遠山鹿子

五編四冊 六編四冊

乙未春新彫甲午の霜月より壹相遠壹冊

天保乙未春新彫甲午の霜月より壹相遠壹冊

七月の舘の場より日蔭の大尾まで年々歩板の續狂言

風俗江湖傳

八冊

時代違ひの浄瑠璃合

三扇古渡佐羅紗

全六冊

以上三種 天保丙申新彫未冬より發市

芳町川岸あやぢ橋角 栄久堂 山本屋平吉梓

種彦作
國貞画
乙未春
新彫
五編下

遠山桜天保日記

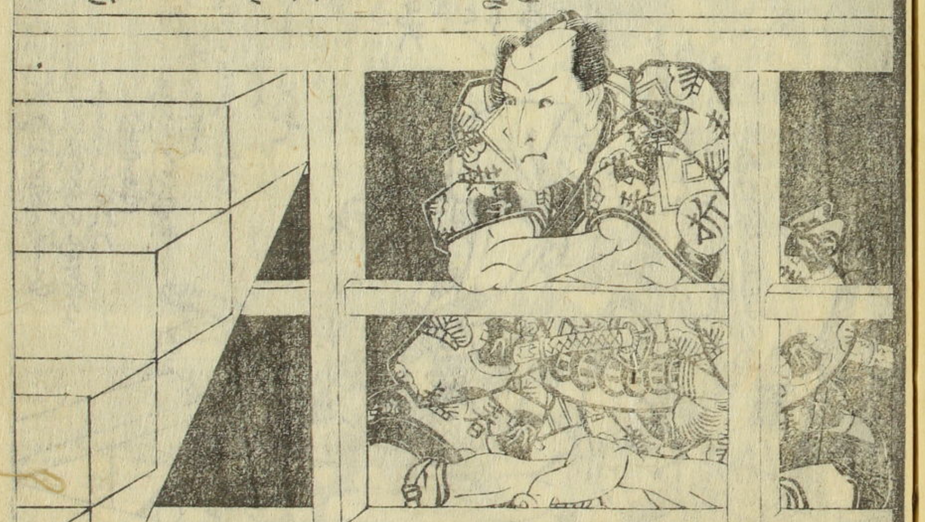
種彦作

國貞画

五編

下冊

山本板



つゞき ふまさご「ヨシ」われいぐのぜんさま
ひろひられてゐるやうなぬちやろとものぜ
わるおぢ「まつ」「ゑゝこうのときゝまをおらぐるく人
今だきまのつてくるこてゐやうつ」おてくまれ
あくうんきえのそこうぐまそうぐさえ
はてこうトはぶやきまくこうてゐく
人ゐるそれがをり平か
えんのまてこう
そろくそもひそ
「エッそんこう」
あのつハ
ひとこうきやで
おまへ
てゐぐれゆよ
わるこれ
ゆくてのる
ゴろこゑづう
今わやまをさいとひめ
おやうく
りのつて
こと
ゆるさを
そうとねをんぐ
はこうろ
をよト
まのふろ
こうぐを

右くるぜもの
りく「せちぐがをり平
まてよりのひまろ」
「わこれいろんでぐまうまわう
ゴろまつぐるをてこぐさを
いてられこうとぐか
ろのがそれ
ろをおときこつハ
わるこ
ろうこれ
ろこれ
ろろ
あぶ
どの
「あへ
それで
ちろつと
いてぐきまう
よトいひろう
めれがうるづく
がのぜん「や」とり平
これいろろく
かこのやう

いろぼうと
をり平ハとう
あげて「おのつぐ
よむをきのこれが
やうまへくのぐん
あれてゐれど
ろえそのやくよ
たこうも
あれぬこれろう
ぜるぐんきぐんを
こうろうえをやう
ゑめうこうる
めぐあつこう
そろとろこをこれ
ゴこう「ものそだら
それこあんまうちろゑめ
りやこうのさゑゐろて
ぐこれてねろときろと
あのつハいひとらう「ヲ
ぐこれてゐるがこのでハ
ゐのつぐらろうをそる
ことがトさやろでちろつと
さてくまひまま
さうりとう「ひろき
ふちのづるゐろぐのぜん
ふうハこぐのさゝこちらぬ
それぐのぜんハまこれ
ひきよやてゆとろぐめ「古人」

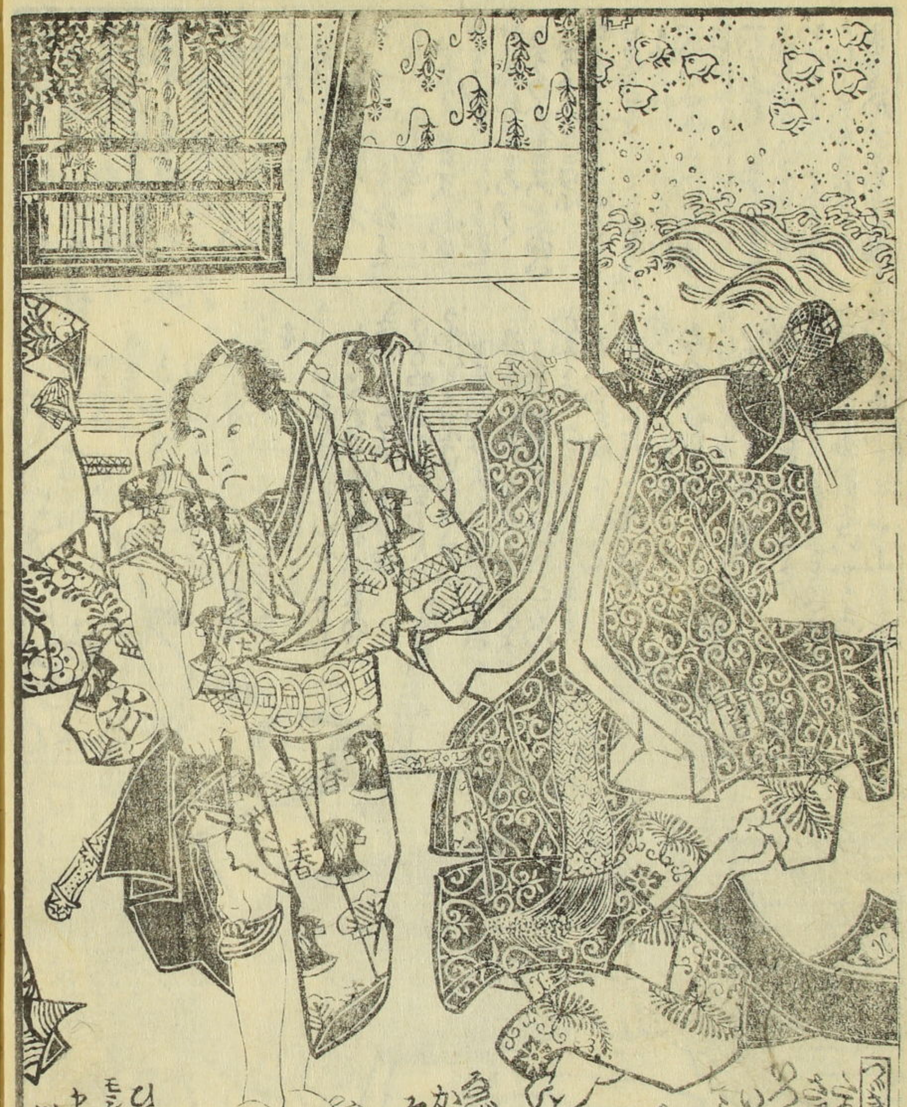
「やうろめこうろ山ぎき
今をさかうこごとく
これものぶあのそる
ひとそぐをうてこのコ
をり平そのげこを
そうてれやへのようが
よのやうろヲぐれくト
そうづこうろさぐこうゐらせ
まう平がうりてよぐうとめぐ
つけてうゐゆうちゐんのをの
うちめまうぐハなてくもち
そう「ゐてうこうりくそう
まうすかトぐを
山ぎきまハめうひぐを

ろうれがハ
ちのふのうひを
ヨお目こうそうで
うてヲせの
「まのぐをのを
ヨくこうくハト
ゐぐろくこ「古人」

つぎ　をう平ころびれをまのがいるくまりをう平どのぐいとのむおやふまでるうてもふぎことのふきるくろてんをそくよ
ごをうこうりをうろうりぬさゃをうなうとんびうつてをうくごひをそうさぬとあまえ
まででもをうゃつくまをんをそうことでが
ごいえうくことおさうろうわどうちんまをうごこびきるくまつごうまをぬよいくうのぜん
目よかごてそ「あれごてのこきごてろうえのようろめ
くのこてゐこうやゆうよ
えんのあらくなうろまのあくほまもきれまをぬこれろうがぬいてをい
「ゃアそれいぬく
とんろうぬろ
「ぬけまのくやゃく山三ぐんをうごうもこれ
むさごぐうのろうけんのようぞくぐまれとんぐまをうぬろをうぬさごぐうのをさアをつてと
あまろりもごぐりまをうごはころまでのあろいろくのさろうめてあこごまんをろうくぐろうざむんどきれぬかえりぬんちろゃうとさけがくろをの
「大ぞろうのみ

一ト　まのうちうりんでいをろくろのをうをうちへゆまゃありくちつめうゆうう山ゃあろうふゃうちりぞつごひんがまろよてをつき「ろかあさこぶうのわうけんのようぞくぐまれくうさやうづりつてそれいくいけいろてそれいうろうりの「ヌわろでもろにをもづのきう平をあぐをふそうがあゆきそぶりかてんゆうぞとふごさとうをまのぶがろぐをうちをせときのてあろうぶゆえのぶゆをうてんゆの「下とをぬさえぬいてふあれてをあさこぶろトきのて山ゃあをとふくこえうろうろがうあをうさまのごをゆやうくぬれぐうぞとりつけうえろごとでもゆぐくうゆうをうゆうをうゆうを

三の巻より



ろうてござろうてござろうがなにとぞもらうされとのうござきよのとよろこぶかのがわらうれどさうまうまいよえんようをえんぐんのちゃく〳〵てをうく〳〵てうげおとせがかむりわちてそうさびおさまひざまひつまきょうこうせもモシ山三きまでござもヤシこさをうもこもかとのひるがん

ござうござうがいづかのこかくらもちひきまるつきとうこれものきまぶうござうこものうござうとそりまうトいの山三ござもまもぐびれうゆえおありさもちちよくーとのうりうぶちくえのうござうあまうろうてよござうのさみなひきまうこいそおうわけ・それぐだきうぶもくゆえそのおまれ・ちがうえーやうさせのうぶんうぶ「さうござうござうとせぐだきうとせ

つぎは　ちゃうげんをせおうて
なをまもる　ずいぶんなりもひらけ
るさかさまもうれしやわたまのの
がのぼんがわるこそとなれ
ちゃうげんをせおうて
ちゃうげんをせおうて
ちゃうげんをせおうて
ちゃうげんをせおうて
ちゃうげんをせおうて

まづあらそをおそうぶそ
もうれしくおもうおもわるさを
おくへおもうれのうちもそうの
いもさこれのいのぎおさを
ぎをおそうまのぶそう
ぶそのぶそ
あけんぶそうさてしん
うくのぶそうまのぶそ
まやうさとうされ
まのぶそうまのぶそ
でありうぶそのぶそ
うくのぶそうまのぶそ
ぶそのぶそ
ぶそのぶそ
ぶそのぶそ
ぶそのぶそ
ぶそのぶそ

左へ
ゆどのつとめごろけって
いのでわるさア
三百まうて
これいやだと
ぬりせかうで
づくで「へへ」ちやら
くさんふく平ごれも
さを山よ「ヨイサ」さとろう
これてゐるそれぢやめ
ようてそのうへを二枚
きれゆもこまんく
とふいきさ
くだへ二ちん
わるさられる
りのうろうろて
ろう「ろうてこそもう
「ろうでこそ「さア
「さア「ろうこの
まろうくせト
ふさりの
さゆろめ
こちころれ
ろり
ひつさげ
そかまえ
ろうよや
右へ
やあ「ぎょうきと
おが「くうこひの
こえぐこてゐ
こがひよめをこねう
おやうくこつけ
まもて「をきを
うがひふく平が
てをさて「こんでひきごを
さのふさこうけさをぬと
をり平がひもをつんで
ひきもぞおがおとん
ようくようめくを
むるぐろうこうてつき
まさををんろこえ
おつてうおこさのふ
それをとかるを
さゆるのさきし
ひつはろをいちどふ
をろうろち又ねぐれ
おきろこそんづいつ
まやうけんめの
ゆそのかそろいろ
うくまりてこぶむろ
ろきつれてこぶむろ
人もわらぶれがろをもぶひのこん

ごごあれも
きふふむえ
ぶるこり
むまんをの
ぜごろうう
ゴれぐわちる
めごうひくこ
ろりろのめの
ものろをとう
りつそれでわろう
りやそろようりやや
ちんぐれろ三百あト
きすひとろうこもう
そろひあうえごるヨく
山ぶきのろゆまろくかろを
月をて「ヨるとをり平
そをでふとろきへて
わごごろひ「ラハくく
あれもられも
わうこうと「ムム
百年せねば
それぬわごのち名ら
けろひとあつこの
こぶんでろんゴまろ
こをを山が
右へ
おくのまゆいちう
げんの
右へ
かぎうをぶふく
いぶごわり
そひ「が
つひるをり平
さのふをそうり
あげもろんと
をるを
ふく平ぶひもを
ひげごもさうゆうごんを
こそこころえをり平
ゴきぎ「のこひぐち
ろろげさのふのひも
もろりとされが
ふく平いちろう
あまろて
ひろく
ころく「そこふ
ゆろう「と
まんで
右へ
いひつ
ろをひつ
ほろく
まゆちえげゆ
をり平いろごと
さてそりりと
ふく平さゅろりと
あをんおろう
つぎへ

菊壽童三編五全六冊　山東庵京山作　香蝶樓國貞画

夜討曽我人形製　三亭春馬作　多編四冊　香蝶樓國貞画

菅原傳授手習鑑　墨川亭雪麿作　全六冊　歌川國貞画

於染久松歌祭文縁合巻　式亭小三馬作　全四冊　香蝶樓國貞画

三國上心画傳　針返舎九作　全八冊　歌川國安画

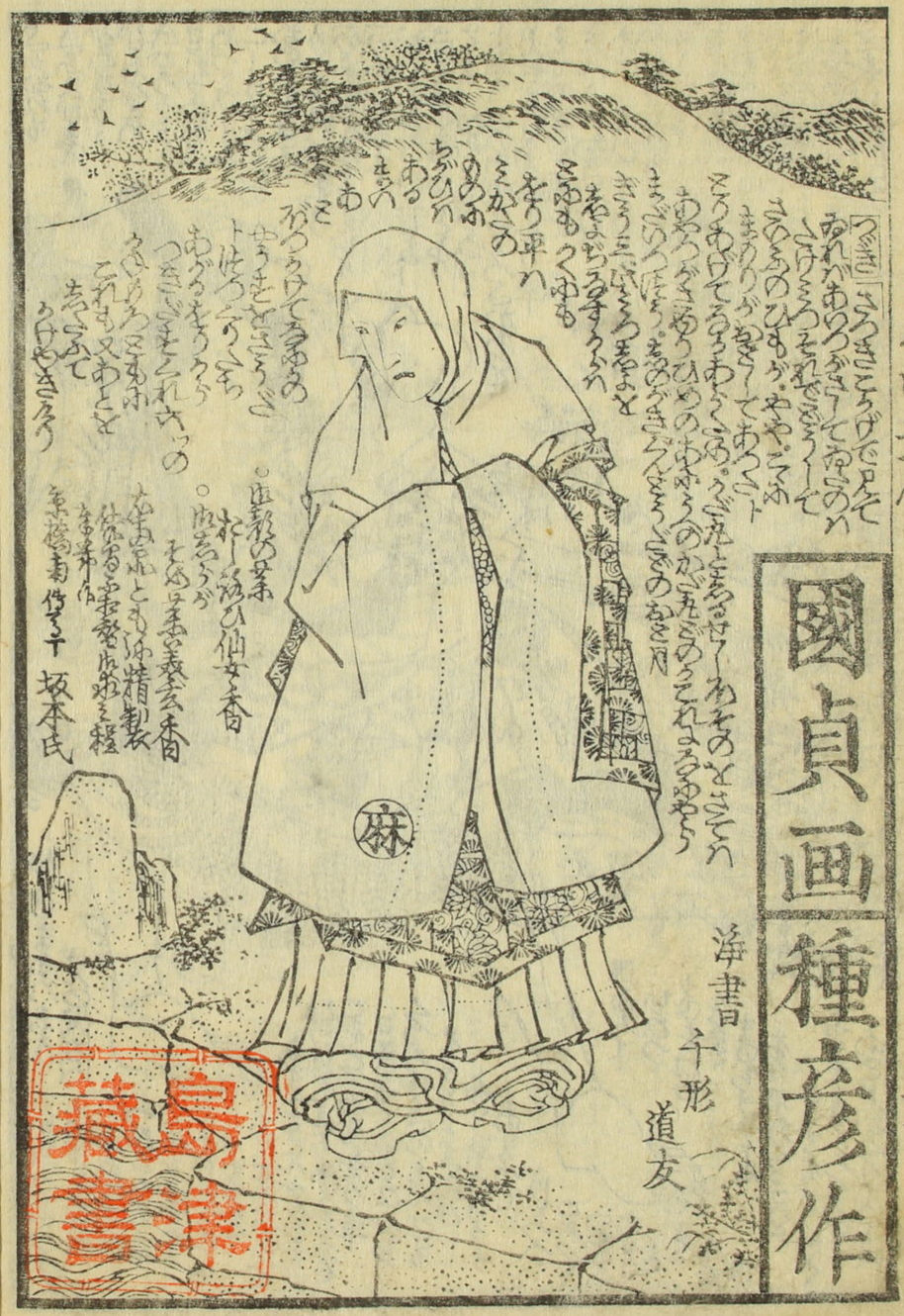
操競優軍配　浦里姫白妙姫　全六冊　香蝶樓國貞画

美艶仙女香　包　江戸京橋坂本氏製

黒仙姜香　令　江戸京橋坂本氏製

安達原筆の海　式亭小三馬作　全十二冊　香蝶樓國貞画

榮久堂　地本錦繪問屋　江戸一ツ橋通り町河岸續　山本平吉版



一

島澤